

戸木だより

津市立戸木小学校だより

2021. 6. 24 No.13

ハンセン病問題を考える～感染症に打ち勝つ力は、優しい心～

6年生は人権学習の一環として、馬場明生さん（津市人権・同和教育研究協議会副会長）と草分京子さん（米ノ庄小学校教諭）に来ていただき、ハンセン病問題について学習しました。ハンセン病は「らい菌」という細菌による感染症です。皮膚や抹消神経にマヒが起こるため、やけどや皮膚疾患に気づかず、他の病気を併発し手や足、顔などが変形してしまうことがあります。そのため患者の方は



怖い病気として長い間差別を受けてきました。しかし、本来らい菌は感染力が弱く、既に1941年には治療薬が開発されていました。今では後遺症も残さず治癒する病気です。しかし、日本では1907年から強制隔離が開始され、治療薬ができ完治するようになってからも病気に対する正しい啓発は進まず、患者の方だけでなく、家族の方も差別や偏見に苦しまれてきました。1996年ようやく法律が廃止されました。罹患していた方にとっては完治してからずいぶん長い年月が経っていました。長い年月の中で亡くなられた方もたくさんいます。また、存命されていらっしゃる方も高齢になってしまったことや今でもある差別や偏見のために施設で生活される方が多い現実があります。病気への誤解や恐れから広まるうわさやデマなどが差別や偏見を助長し、誹謗中傷する



人だけでなく無関心が人を傷つけることは今の新型コロナウイルスについても同じです。最後に、「どんな小さなことでもいいので、まずはまわりの友達、家族の人たちを見て、本当に困っている人に寄り添える人になってほしい。」というメッセージをもらいました。新型コロナウイルスも変異型が出てきて感染の終息がなかなか見えない中、偏見や差別でまだまだ苦しんでいる人がいます。このメッセージをしっかりと考え、昔にあったことではなく自分の身近な問題として子どもたちと一緒に考えていきたいと思います。

図書室運動場側の壁に飾られている「黄色い花」という絵です。ハンセン病患者であった鈴木持次さんが生きる証として描かれた絵です。手が不自由だったため、絵筆をベルトで手に固定して絵を描き続けたそうです。資料と一緒に展示してあるのでぜひ図書室にお越しの際は、ご覧ください。

7月の主な行事予定

5日（月）、6日（火）、8日（木）地区懇談会

14日（水）、15日（木）、16日（金）個別懇談会

7日（水）通学団集会

15日（木）給食終了

8日（木）七タウォークラリー5限目

19日（月）大掃除

20日（火）終業式